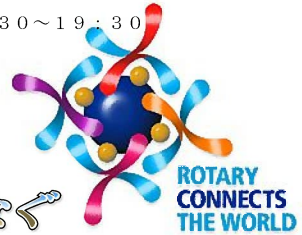


# 皆野・長瀬ロータリークラブ

## 週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30  
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭  
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内  
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134  
 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp  
 ◇点 鐘 畝 徳治会長  
 ◇ソング 奉仕の理想



ロータリーは世界をつなぐ

第1499回例会 令和2年1月30日(木)



# 新年会



### 【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんばんは。親睦例会の時には日野原先生の本からの抜粋をお話しています。

タイトルは勝手に私が付ける部分もありますが、今回は本の通りかと思えます。病と出会う事も良い意味があるという事で、日野原先生が自分の病気の体験を含めて病気がある事自身もマイナスだけではないと言っている箇所です。

自ら病と出会うことも、悪いことばかりではありません。たとえば子どもといえども、病気を持つ子どもたちが、優しく大人びて見えるのは、病と出会うことで、痛みやつらさを知り、命の尊さを理解しているからだと思えます。

私は(日野原先生自身ですが)小学生の時の腎臓病の体験に次いで、大学医学部の1年を終えたときにも遭遇することになりました。結核にかかってしまい、結局、一年間休学することになったのです。高熱と背中との痛みとで、8ヶ月間はトイレにも行けませんでした。母が寝ている私の背中に手を当ててくれると、とても楽になるのですが、じっとその態勢を取り続けなければならない母のことを思うと気の毒で、自分から「もういいよ」と言ったものです。

私は、幼いときから負けず嫌いで、何でも1番でなくてはならないと思っていましたから、この休学はショックでした。挫折感は大きく、人生への絶望感で悩みました。1年後の復学後も「1年間を棒に振った」という思いを払拭できずに、ずいぶん悩みました。

しかし、今(この今は80才を過ぎている頃です)振り返ると、あの1年がなければ、私という人間はつくられなかったと思えます。

病気に苦しんだおかげで、患者の体や心の



痛みがわかるようになりました。患者の「痛い」という言葉によって、自分の苦しい体験が再現されるのです。私が病と出会った意味は、ここにあったのだと思います。

自分の経験がその後の医療生活でも生きてますという紹介です。今病気になっている人は、逆に言えば、もっと早く病気になっていれば良かったと思うかもしれませんが、負の面も考え方によっては正になるという事ではないかと思えます。

### 【幹事報告】

山田 利明

1. 地区事務所より国際大会日本人朝食会の案内
2. 本庄南RCよりIMクラブ紹介パネル作成、クラブ旗送付のお願い

IMにおけるパネルについては会長と私で作っております。活動を紹介するという事で、2月14日までに届ける予定になっています。



### 謡曲

胡蝶 2回目

畝 徳治会長



胡蝶の続きです。僧達が梅を見つけ、梅の由来やそこに居た女性の名前を問いますが、なかなか教えてくれません。

地「梅が香に。昔を問へば春のつき。昔を問へば春の月。答へぬ影も我が袖に。うつる句も年を経る古宮の軒端は苔蒸して。むかし恋しき我が名をば。何と明石の浦に住む。蟹の子なれば宿をだに定なき身は恥ずかしや・定なき身ははづかしや

少しだけ身分を明かします。胡蝶の冒頭を紹介させて頂きました。



新井 康夫会員



長岡 倉雄会員

出席率 100%